

戦時下における
苦悩と創造

佐藤敬展

クラークフィールド攻撃 1942年

4・10(水) - 5・6(月)

休館日: 4/15(月)、22(月)、30(火)

開館時間: 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

観覧料: 一般600円(500円) 高校生・大学生400円(300円)

中学生以下は市内、市外を問わず無料

()内は団体[20人以上]料金。

上記観覧料でコレクション展(常設展)も併せてご覧いただけます。

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳提示者とその介護者は無料。

本展は「大分市美術館年間パスポート」がご利用いただけます。

主催: 大分市美術館

後援: 大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分
OAB大分朝日放送、エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

〒870-0835 大分市大字上野865番地

TEL097-554-5800 FAX097-554-5811

ホームページアドレス

<http://www.city.oita.jp/>→総合案内「楽しむ」→大分市美術館へ

三人の家族 1940年

 大分市美術館
OITA ART MUSEUM



独唱 1936年



水災に就いて 1939年

佐藤敬(1906~78年、大分市出身)は、大分中学在学時に山下鉄之輔の指導を受け、セザンヌ以降の西欧美術の新たな動向に惹かれ、東京美術学校に進学。帝展に初入選した翌年の1930年には、パリに留学し、サロン・ドートンヌへの出品などの活動を通じて、マチス、ピカソ、藤田嗣治など仏内外の芸術家たちの活動に刺激を受け、滞欧中に出品した1932年の帝展では特選を受賞。1934年、帰国しました。

敬が帰国した翌年、国家統制の一貫として、文部省は、国内の有力画家を国家の管理下に置く形に帝展を改組。これは、「第二部会」結成などの官展の洋画家の抵抗にあって挫折しますが、この時、敬は、声明文を発表して文部省を批判。その一方で、第二部会展では文化賞(特選)を得て、会員に推挙されるなど注目を浴びました。

また、1936年、多くの洋画家は文部省の妥協案を受け入れ、官展に復帰しますが、敬は、自由な発表の場を求めて、猪熊弦一郎らと新制作派協会を創立。ピカソの作風を吸収しながら、シュルレアリスム等西欧美術の新たな動向を踏まえた意欲作を次々と発表した後、戦時統制が強化された1941年には、従軍画家として戦地に赴任。戦後は、「一画学生に戻る」として、1952年、再び渡仏し、60年代には、独自の抽象絵画のスタイルを達成しました。

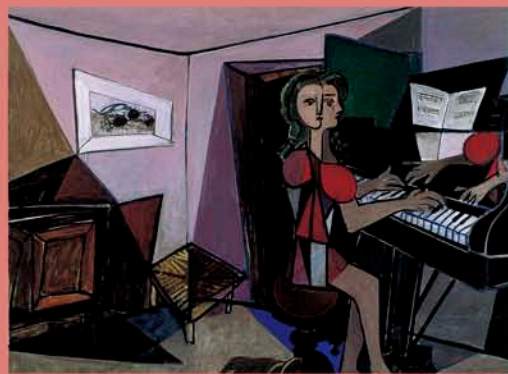
本展では、新制作派協会の初期及び従軍時代の作品を中心に、激動の昭和初期の敬の作画動向を辿るとともに、敬とゆかりの藤島武二、藤田嗣治、片多徳郎、権藤種男、宇治山哲平、糸園和三郎等の作品を紹介します。



月 1938年



南京光華門 1941年



ピアノと子供 1951年

展示解説 (観覧券が必要です)

日時: 会期中毎週水曜日午後2時~
解説: 美術館職員

交通案内

- バス: JR大分駅・府内中央口【大分駅前3番】のりばから大分バス【大分市美術館】行 約10分 終点下車すぐ
- タクシー: JR大分駅・上野の森口から約5分
- 車: 大分自動車道/大分ICから約10分

次回特別展

郷土在住作家展Ⅶ

詫間夢鳳展: 5月10日(金)~6月2日(日)
渡辺恭英展: 6月7日(金)~6月30日(日)

